

令和7年7月11日(金)

大阪府立農芸高等学校 令和7年度 第1回 学校運営協議会 議事録

学校運営協議会 15:00～16:30

【参加者】

【委員】PTA会長 石井 明日香 様 農業大学校校長 根来 実 様
同窓会会长 田中 浩永 様 さつき野学園長 佐古田 英樹 様
美原区区長 小川 靖子 様 帝塚山学院大学大学院教授 大堀 彰子 様(欠席)

【職員】教頭 土肥、事務長 亀井、首席 樽井・井上・鳥谷、生活指導部長 山本詩
保健 稲葉、総務 河合、A科 葉山、P科 中山、Z科 瀧口、校長 浦(欠席)

【開会】

1. 教頭挨拶

- ・教頭土肥より挨拶
- ・各委員より自己紹介

PTA会長 石井 明日香 様、農業大学校校長 根来 実 様、同窓会会长 田中 浩永 様
さつき野学園長 佐古田 英樹 様、美原区区長 小川 靖子 様

職員については、報告時に合わせて紹介する旨を了解していただく。

- ・学校運営協議会会の説明、および委員長(司会)の選出

2. 学校運営協議会 委員長選出

農業大学校校長 根来 実 様…承認

3. 協議(司会:委員長)

(1) 令和6年度 学校運営計画及び学校評価について(教頭 土肥より説明)

昨年度の第3回で報告した学校運営協議会における授業アンケートの結果、学校自己分析の数値など、参加者からいただいたご意見を踏まえた内容について報告する。

- ・令和6年度の進路状況の説明(進学・就職)について(鳥谷より説明)

進学 国公立11名、専門職大学1名を含め12名、専門学校は大阪府内が多いが、農業大学校は牛豚鶏等学びたい生徒は全国の農業大学校へ進学するなどその割合は75%と多岐にわたる。

就職 求人倍率7.18倍、就職者21名。大手の民間企業から、大阪府、堺市、国家3種と就職先も多岐にわたる。

(ご意見:農業大学校校長 根来 実 様より)

- ・地域おこし協力隊に就職について1名について教えて欲しい。

必ずしも望ましい給与等ではないが、条件が整えば、昨年、岡山からその募集が来るなど地域の課題を農業高校にいても感じことがある。

今年度の計画は昨年度の報告を踏まえて

(2) 令和7年度 学校運営計画および取組みについて

教務部より(井上・樽井より説明)

教育課程の編成の取り組み状況、教科書選定等について概要を説明。この後、協議をいただきたい。デジタル教材、情報については樽井より説明。

クロムブックの1人1台端末についての状況を説明。今後、LAN教室は1校1つになる方針で大阪府が動いている状況下での本校の動きを説明。なお、DXハイスクール事業でハイスペックのPCやプリンターをその空いたLAN教室を新たに整備している状況、本校職員のICT端末の導入による会議や情報共有の方法について説明。

(ご意見:農業大学校校長 根来 実 様より)

今回の説明はどの部分についての説明になるのか？例えば、1-5についてなど、説明するときにはどの項目に沿った取り組みなのか、説明をいただきたい。

(生活指導 山本より説明)

3 規律・規範の確立についての取り組みとして、遅刻者に対する指導を徹底し、遅刻数を減少させる。問題行動における懲戒件数を減少させる。いじめアンケート等を活用し、教育相談や支援教育の理解を深めて指導力を高めて、一人ひとりの生徒に寄り添い学校生活への定着を図る。

(進路 烏谷より説明)

確かな学力の保障としてLHR計画を立て、担任・学年と協力をしながら3年次の進路決定につなげていく支援を行う。地元企業を招いての進路学習と基礎力診断テストを活用した学力向上を図る。たとえば、基礎力診断テストのC以上で国語力のある生徒は英検準2級に合格する、日本農業技術検定2級に合格するなどの農芸高校内の指標も見えてきているため、生徒の強みと弱みをつかんだうえでの指導体制を強化していく。

(保健 稲葉より説明)

教育相談体制の充実のため、教育相談委員会を設置しており、生徒の体調不良、不登校等の事象に適切に対応できるように、SCやSSW等の連携しながら進めていく。

(総務 河合より説明)

体験入学会2回、学校説明会5回。昨年度より6月に実施した参加者は昨年度より多かった。大阪の府立・一律の文書発送システムを活用して、PRをしていく。中学生だけではなく中学校の先生にも理解していただく、進路選択の1つに農業高校を選んでもらう姿勢で取り組む。HPやインスタ等の発信を行い、生徒の力を借りながら

(農場 烏谷より説明)

2, 5に関連。農業クラブである意見発表とプロジェクト発表が再来週に控え、近畿大会をめざして指導中。農業鑑定競技でも全国での入賞をめざし、農文協の電子ルーラル図書館を活用した支援体制を整え、科目での指導にもつなげている。DX事業としての連動も想定し、動画やインスタ配信など、情報は鮮度が命、総務部と連動して農産物の販売や催事イベントを通したPRについても生徒の学びが深まるよう意識しながら取り組んで生きた。

(ハイテク農芸科 葉山より説明)

100校以上の中学校から来ていることもあり、情報発信、農産物の販売を行い、出前授業などのPRを行う。進路実現に向けた指導をしっかりと行い、昨年は40人1クラスで7名国公立大学に合格

している。各自で好きなテーマで取り組んでおり、FFJ「特級」で最優秀を取り7万人のトップになった生徒もいる。造園も1分野であり、同窓会でも校内の支援をお願いしたい。

(食品加工科 中山より説明)

個人的に面白かった2つを紹介。ダイヤ製パンに就職した卒業生との取り組みを進めプロッコリーの外葉をつかった取り組み。特殊詐欺被害防止の対策のシールを付けたラトルチェと連携した菓子で地域貢献にもつなげた教育活動を添加している。

(資源動物科 瀧口より説明)

2と5。農芸高校の魅力を発信として、2年前の募集で定員がわれたことに危機感を感じ、唯一の大坂府下の動物を扱った現状の中で、情報発信の必要性を痛感して進めている。中学生への体験授業、公立大との連携、ふれあい動物園活動でも、高校生が教える形態をとり、深い学びにつながるよう意識した教育活動を展開している。

(ご意見:農業大学校校長 根来 実 様より)

広報の説明、5学校PRについてお聞きしたい。

農業大学校でおインスタに特化して毎日投稿を1本以上している。検証は今後必要。アウトプットをより多くの人により多くの機会を作ることが大切である。より多く設定していただきたい。何人の生徒がアウトプットを行ったのかとその回数を意識するとよい。

カウンセリングについて、外部の体制はどうなっているのですか？

月に1回本校にはカウンセラーが来校し、生徒が相談する場合と、わが子とコミュニケーションの相談といった保護者の相談の場合もある。比率は生徒の相談件数のほうが多い。

(ご意見:同窓会会长 田中 浩永 様より)

農芸高校を卒業した後の生徒の進路先とはどうなっているのか？

農芸高校を卒業した生徒が大阪府の農業大学校の4名の進路先について説明。(農業大学校校長 根来 実 様より)。雇用就農(和泉市の大農家)1名、トマトやナスの大農家の雇用就農、水稻栽培の雇用就農(交野、四条畷、京都)1名、JA(ブドウの産地)に就職1名と、活躍してくれている。

地方の就職では保護者も不安な面もあるため、農業大学校などから情報を入れてもらうと安心材料になる。大学校の情報、大学卒業後の情報、就職先の情報があると日々の教育活動につながる。

希望としては、大学に進学して教員に戻ってくるのもありがたいが、現場のほうで活躍する人材を育成してほしい。

(ご意見:美原区区長 小川 靖子 様 より)

美原と堺が合併して個として20年、広報誌はHP、インスタでの発信もしている。美原の魅力を投稿し、投票し、デジタル配信などのコンテストを行ったところ、フォロワーが増えている。イベントとして田植えイベントなどは倍率が高く、堺の北区からの参加もあった。今年の農業塾の熟成も例年1名のこと路、今年は7名と参加があった。情報発信は共にしていきたい。

(ご意見:さつき野学園長 佐古田 英樹 様より)

同窓会組織でバックアップして、業を起こす、起業する、雇用を確保するなどの取り組みがある。農業に関する受け入れ先、コラボで企業する。受け入れ先にする、バックアップするのが同窓会か、企業か、確保する組織があるとよい。

お金の部分では行政の出先機関である、中学校も同様、本体の行政機関の支援がもらえない

のが苦しい。名前は振れないのであれば、どこかとコラボするしかない。企業、大学の研究、資金を集めの手段が必要ではないか。実践教育ならば大学と科研費を取りに行くなども1つではないか。大阪府がだめなら堺市からの支援がもらえば。どこからどうお金を引っ張ってくるのかが深刻な問題であろう。中学校でも同じ悩みである。

（ご意見：PTA会長 石井 明日香 様より）

体育館の前の給水機が壊れている、修理できないのか。

校内の優先順位を決めながら、随時修理を進めている。しかし、先ほどの説明でもあったように予算がひっ迫している現状がある。

（理事の皆様で意見交換）

目的があった場合は同窓会でも寄付ができる、大阪府も年度区切りならば一定の寄付としてゆめ基金ならば、学校を指定していして寄付できる制度ができている。指定している学校に寄付できる制度があるが、本校でもその議論が始まったところである。これも含めてインスタの発信なども必要になるであろう。悪循環にならないような、持続的な取り組み

井戸は防災と結び付けて、避難場所として位置付けて、なんとかならないのか。地域の住民の生活の安全にもつながるが。ある設備が老朽化で使えないのは厳しすぎる。日本農業新聞には全国の農業高校の老朽化が掲載されていた、国の交付金だけではどうにもならない状況。次の手を考えなければならない状況なのであろう。

（3）教科書採択について（井上より説明）

国語の言語文化1科目、2年では変更。食品加工科の科目を学校設定科目から既存科目に変更、資源動物科では教科書を活用した内容に変更。以上、教科書を選択している、資料を参照いただきたい。

（ご意見：農業大学校校長 根来 実 様より）

言語文化の教科書は今年から使用しているのか？

令和4年度から言語文化の教科書になっている。

以上、学校運営協議会で説明し、ご意見をいただいたことは、教育委員会に報告することとなっている、ご理解いただきたい。

（4）令和10年度選抜 特色枠について（土肥より説明）

特色枠、2ページの2、令和10年度より、合格者のうち50%以下ならば（本校200名のため100人以下）実技試験、各教科の比率を変えるなど、学校の特色をつけて合否をつけ、総合点の高い順に選定するなどの新たな制度が始まろうとしている。来月上旬には教育庁に提出する必要があり、農芸高校としてどう特色枠を出すのか、これを検討している。農芸のアドポリに沿った特色枠の案としてまとめたものが資料のとおりである。参考いただきたい。

全体の募集人数に対する10%（つまり20名）に対して行うのがどうか、これが原案である。重視する観点としては、委員の先生からご意見を聞きたいが、国語、数学、英語、理科、これらの科目の比重をあげるなど、職員からの意見がでている。全体の意見としてまとまっているわけではない。

（ご意見：農業大学校校長 根来 実 様より）

皆様ご意見はございますか？

（さつき野学園長 佐古田 英樹 様より）

中学校現場からすると令和10年度の入試は大きなトピックである。保護者からの関心も高いものである。中学校1年生からも進路説明会をする必要なる内容となっている。現状、これまでの入試では評定5段階で内申点として評価されているかと思うが、どれくらいの生徒か。仮に理科が3,4だったとすると、ターゲット層としてずれていないか。他の国公立や私学などの進学先が多い高校と同じような形だと埋もれてしまうことが懸念される。これがすべてではないと思うが、入試の煩雑さもあると思うが、農業の3学科があるなかで、卒業にどんな力が必要なのか。テストの点では表現できないものはなにか、伸びしろは大きいがテストになると表現がしにくい。入り口の段階で点数になると、悩ましい。農芸高校でもテストの点数を評価した入試形態になるのならば、時代があともどりするように思ってしまう。

リソースは素晴らしいもの多いため、そのリソースを使った高校としての特色をいかせる見せ方をされた方が良いのではないかと感じた。

（ご意見：同窓会会长 田中 浩永 様より）

昔の1次2次選抜のころは学力差があったが、今年度の入試の意図が見えにくい。だから皆悩むのではないか。孫の試験はこの試験を受けることとなると思うと。

（理事の皆様で意見交換）

しかし、プレゼンをするにも難しいのではないか。公開情報になるため点数化される。公開請求されると、答案も示さなければならない。どう客観的に示すのかを考えなければない、だから悩むのだろう。

（教頭 土肥より）

いただいた意見を踏め、本校でも議論を進めたい。

4. その他

（教頭 土肥より）

次の予定に1点修正があります、令和7ではなく令和8年度である。

委員長は農業大学校校長 根来 実先生にお願いをしているが、副委員長は同窓会会长 田中 浩永 様にお願いしたい。→承認

【閉会】

今後の予定

第2回 令和7年12月19日（金）15:00～16:30【内容】教育活動の中間報告など

第3回 令和8年2月13日（金）15:00～17:00【内容】年間の教育活動の総括